

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 1 区分

【発行日】平成29年9月14日(2017.9.14)

【公開番号】特開2016-67984(P2016-67984A)

【公開日】平成28年5月9日(2016.5.9)

【年通号数】公開・登録公報2016-027

【出願番号】特願2014-198211(P2014-198211)

【国際特許分類】

B 0 9 C 1/02 (2006.01)

B 0 9 C 1/08 (2006.01)

C 0 9 K 3/00 (2006.01)

【F I】

B 0 9 B 3/00 3 0 4 K

C 0 9 K 3/00 Z A B S

【手続補正書】

【提出日】平成29年8月3日(2017.8.3)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

酸もしくはその塩、酸化マグネシウム含有物質、および温度調整材を含む不溶化材であって、上記酸もしくはその塩 100 質量部に対する上記酸化マグネシウム含有物質の量が、10～100 質量部であり、かつ、上記酸もしくはその塩と上記酸化マグネシウム含有物質の合計量 100 質量部に対する上記温度調整材の量が、60～400 質量部であることを特徴とする不溶化材。

【請求項 2】

上記不溶化材を構成する材料の全量（100 質量％）中、酸もしくはその塩の含有率が 10～45 質量％、酸化マグネシウム含有物質の含有率が 7～30 質量％、温度調整材の含有率が 40～83 質量％である請求項 1 に記載の不溶化材。

【請求項 3】

上記酸もしくはその塩が、硫酸塩、硫酸、塩酸、および酢酸からなる群より選ばれる一種以上からなる請求項 1 又は 2 に記載の不溶化材。

【請求項 4】

上記酸化マグネシウム含有物質が、軽焼マグネシアまたはその部分水和物を含むものである請求項 1～3 のいずれか 1 項に記載の不溶化材。

【請求項 5】

上記温度調整材が、炭酸カルシウム含有粉末、珪石粉末、頁岩粉末、無水石膏粉末、ゼオライト粉末、およびドロマイト粉末からなる群より選ばれる一種以上からなる請求項 1～4 のいずれか 1 項に記載の不溶化材。

【請求項 6】

請求項 1～5 のいずれか 1 項に記載の不溶化材、および水を含むことを特徴とする不溶化スラリー。

【請求項 7】

液固比が 100～300 質量％である請求項 6 に記載の不溶化スラリー。

【請求項 8】

請求項 6 又は 7 に記載の不溶化スラリーを製造するための方法であって、上記不溶化スラリーの練り上がり時の温度が 40℃以下になるように、上記不溶化スラリーを構成する各材料の種類および量を定めることを特徴とする不溶化スラリーの製造方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

本発明は、以下の〔1〕～〔8〕を提供するものである。

〔1〕 酸もしくはその塩、酸化マグネシウム含有物質、および温度調整材を含む不溶化材であって、上記酸もしくはその塩 100 質量部に対する上記酸化マグネシウム含有物質の量が、10～100 質量部であり、かつ、上記酸もしくはその塩と上記酸化マグネシウム含有物質の合計量 100 質量部に対する上記温度調整材の量が、60～400 質量部であることを特徴とする不溶化材。

〔2〕 上記不溶化材を構成する材料の全量（100 質量％）中、酸もしくはその塩の含有率が 10～45 質量％、酸化マグネシウム含有物質の含有率が 7～30 質量％、温度調整材の含有率が 40～83 質量％である、上記〔1〕に記載の不溶化材。

〔3〕 上記酸もしくはその塩が、硫酸塩、硫酸、塩酸、および酢酸からなる群より選ばれる一種以上からなる、上記〔1〕又は〔2〕に記載の不溶化材。

〔4〕 上記酸化マグネシウム含有物質が、軽焼マグネシアまたはその部分水和物を含むものである、上記〔1〕～〔3〕のいずれかに記載の不溶化材。

〔5〕 上記温度調整材が、炭酸カルシウム含有粉末、珪石粉末、頁岩粉末、無水石膏粉末、ゼオライト粉末、およびドロマイト粉末からなる群より選ばれる一種以上からなる、上記〔1〕～〔4〕のいずれかに記載の不溶化材。

〔6〕 上記〔1〕～〔5〕のいずれかに記載の不溶化材、および水を含むことを特徴とする不溶化スラリー。

〔7〕 液固比が 100～300 質量％である、上記〔6〕に記載の不溶化スラリー。

〔8〕 上記〔6〕又は〔7〕に記載の不溶化スラリーを製造するための方法であって、上記不溶化スラリーの練り上がり時の温度が 40℃以下になるように、上記不溶化スラリーを構成する各材料の種類および量を定めることを特徴とする不溶化スラリーの製造方法。